

三十周年を迎えて

鵬友会会長 前田 敬一

昭和四十二年の長崎県立国際経済大学の創立より、現在まで三十年の歳月がたちました。長崎県立大学と学名を変更、流通学科の創設、更に大学院が開設されるなどの充実化ははかられ、その間六五〇〇名に及ぶ卒業生が誕生してきたわけですが、

三十年という時間の経過にもかかわらず、鵬友会の活動は様々な事情から、やっと十年前、二十年を目前にして始まりました。その後は試行錯誤を重ねながら草野初代会長、原岡二代会長等の苦心と熱意が実り、混沌としていた鵬友会の姿は次第に具体化し、現在に至っています。

卒業生名簿の発行、会報の発行、事務局の設置、更に関東、関西、中国、福岡、佐賀、長崎、大分、佐世保の合計八支部の設立は、支部活動という新たな動きを持って鵬友会の活性化を大いに推し進めてきました。

そのような中、更なる動きが関東支部において推し進められています。即ちOBセミナーと呼ばれる卒業生による現役学生に対する就職活動指導の動きがそれです。平成七年始まったそれは就職氷河期と呼ばれる時期にあつて、まさ

に鵬友会関東支部が放った快打というべきものと思います。現役三回生をターゲットに就職活動のアドバイス、特に面接試験の対処、会社訪問の仕方、景気の動向と志望企業の選び方など情報的な指導を試みて、就職活動に於いて出足の遅れがちな地方の公立大学に、素晴らしいバックアップができたということは大いに自賛できることだと思えます。

さて我々は、今年三十周年を同窓会活動の更なる飛躍の年と位置付け、記念事業を計画しました。新卒業生名簿の発行と長崎県立大学のPRビデオの作成がそれです。名簿の発行は十二月という具体的な状況にこぎ着けました。またPRビデオは一年間の学生生活を追いかけるなか、長崎県立大学をビジュアルな形で紹介できるような来月八月をめどに完成予定です。三百本作成したビデオを九州全域の進学校に送付して入試の際の参考にしてもらうことを主眼にしています。

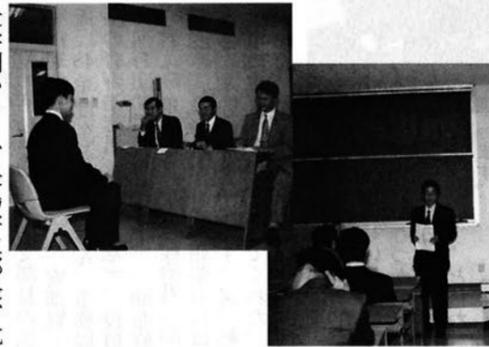
先般、その作成にかかる費用についての募金を全鵬友会会員に呼びかけているところですが、未だ当初の目標にはほど遠い状況です。この会報を再度の呼びかけのチャンスと考えています。どうか、力強い御協力御支援をお願いします。

就職セミナー開催される

去る11月12日(水)15時より、大学大講義室において、学生約180人が参加しての就職セミナーが開催された。同窓会からも関東支部・小野氏が多忙の中来学し、入社試験の面接時における服装面

での注意、最低限のマナーについて講師を務め、就職戦線を間近に控えた学生は真剣な表情で聞き入っていた。

さらに、11月15日(土)13時30分より、就職ガイダンス(面



接編が開催された。当日は連絡の不備から約20名の学生しか参加出来なかったが、関東支部より松田氏(45年度卒)、海老原氏(51年度卒)、糸島氏(63年度卒)、本部から前田会長、福岡支部より浜辺氏(46年度卒)、大村より辻氏(53年度卒)、が講師として参加し、東京から日帰りして駆けつけた糸島氏の就職における業種・企業の選び方等の講演はさすがにプロであり、海老原氏の面接実演編では、相互採点形式をとりながら、一人一人の学生に細かいアドバイスを与えていた。

更に、OBからのワンポイントアドバイス等々、参加した学生にとつては充実した4時間余であったと思う。

留学生歓迎会開催

五月晴れの空が広がる日曜日、5月25日(午後3時30分)レオプラザホテル一層上において長崎県立大学同窓会鵬友会主催、「留学生歓迎会」が開催されました。

石村学長はじめ島教授、他先生方の出席をいただき、鵬友会会長が参加し心あたたまる楽しいひとときを過ごしました。

年一回の交流会とあつておおいに話がはずみ、二次会では留学生諸君の故郷の歌、流行歌と自慢のどが披露され、あつと言う間に時が過ぎてしまいました。

留学中の生活、将来の夢、祖国への思いなどなど、鵬友会役員・家族らともすつかりうちとけ、この交流会の有意義さをあらためて受けとめたのです。

近い将来祖国に帰っても、この国のこと、長崎のこと、そして佐世保のこと、長崎県立大学のこと、鵬友会との思い出をいつまでも忘れないように、またこの留学生諸君が日本との架け橋となり活躍することを願ってやみません。

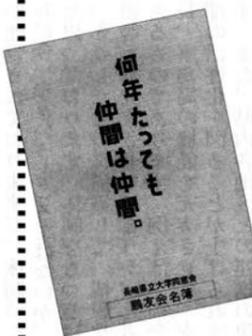


同窓会名簿発行

三十周年を節目として同窓会名簿(第三刊)が12月発行されました。毎年増え続ける卒業生の足取りを追いかける事務局松村さんの苦労は計り知れないものがあります。タイトルは「何年たっても仲間は仲間」です。きっと懐かしい名前に出会えると思います。

◆購入を希望される方は、同封の振込用紙にて購入下さい。

●三、〇〇〇円(送料込み)



住所変更も連絡を!!

事務局において日々名簿のクリーニングをしています。未だ住所の確認が取れない卒業生、変更があるにもかかわらず新住所等の連絡が事務局へ伝わっていない卒業生が多数おられる様です。

自分の名簿であるだけでなく、友人にとつての名簿でもあります。変更の際は必ず、各支部長又は同窓会事務局へご連絡下さい。

●長崎県立大学鵬友会事務局
☎0956・47・5146

お願い!!

卒業生の皆さん各支部からの出欠ハガキ等は必ず返信して下さい。ちよつとした心掛けが同窓会を応援しているのです。

長崎県立大学同窓会 鵬友会会報

あ、おとり

発行

長崎県立大学鵬友会
佐世保市川下町一三三(大学内)
☎〇九五六一四七五一一四六
〇二一〇一四七一九〇四四

30周年記念式典開催

新しいスタートに気持ちも新たに

開学三十周年記念式典が、去る、十月三十日(木曜日)、学内の講義棟3階大講義室において開催された。創設者である高田県知事、歴代学長・教授等の大学関係者の



他、佐世保市長・市議会議員・地元選出の県議会議員・国会議員・市内の教育関係者、また中国からは華僑大学、韓国からは湖南大学の総長・理事長等の出席を仰ぎ、後援会・校友会、そして多数の鵬友会会員の参加により、広い大講義室が狭く感じられるほどの熱気に満ちた式典となった。

現学長・知事・市長と挨拶が続く、前田会長が挨拶に立ち「天然の美と歌われた九十九島等、他に類を見ない恵まれた環境で学び得た喜びと、学生生活を支えていただいた心優しい佐世保市民の皆様への感謝、そして今後の規制緩和に伴う構造改革や、地球規模での環境破壊問題等々、二十一世紀へ向けて山積した諸問題を乗り越えていく人材の育成に大学はもとより長崎県ならびに関係諸機関のご支援を願いたい」と県立大学の今後の更なる発展を願う祝辞を述べた。

プラスアンサンブルによる学歌の演奏に続き、記念品として鵬友会より大学に寄贈しようとしている本学のプロモーションビデオのダイジェスト版の放映が行われた。記念式典用に編集されていたため本学の歴史に重きが置かれていたが、「創造性」・「独創性」という言葉に現わされる本学の学訓やパイオニア精神を涵養し、スペシャリストを育成する各学科の紹介、快適なキャンパスライフ等のビジュアルな紹介は、今の若者にダイレクトに訴え掛けるものであり、有効に活用していただき優秀な学生の確保において役に立っていただきたいものである。

また、京都大学文学研究科教授の柏倉康夫氏による「高度情報化社会における日本の役割」と題した記念講演では、氏がNHK時代に報道局社会番組プロデューサーとしてドキュメンタリー「新日本紀行」・「現代の映像」の製作を担当したり、ヨーロッパ総局等を歴任した自らの特異な体験談を基にすめられる貴重な話に参加者の多くが熱心に耳を傾けていた。

式典終了後は「九十九島観光ホテル」に会場を移し祝賀会が開催され、終始にこやかな高田県知事を交え、華僑・湖南両大学の総長や、懐かしい恩師を囲み時間の経つのも忘れ三十年の歴史とこれからの県立大学の進むべき道をグラブス片手に熱く語り合う会員の姿が多く見られた。

湖南大学の蹴球部の学生を同行しており、翌31日に本学のサッカー部との親善試合が挙行され、互に並みの実力といわれる湖南大学の蹴球部から1点を奪い取る快挙を成し遂げた。(取らせてくれたとの評もあるが)試合後の交流会は、和やかな雰囲気の中で、両大学の学生共々貴重な体験の中で学んだその重みを言葉のハンデを乗り越え噛み締めていたようである。

鵬友会会員のみなさまへ

長崎県立大学 学長 石村 善治

創立30周年記念式典も終わり、新しい気持ちをもつて次のステップに向け努力を始めております。1967年4月長崎県立国際経済大学として出発して以来30年、歴代学長先生を始めとする教職員、設置者である歴代長崎県知事を始めとする県庁の皆さん方の御尽力、そして、なによりもこの30年の間、本学で学んだ6千有余の卒業生の皆さん方の御援助を忘れることはできないと思っております。

長崎県立大学創立30周年記念誌として「30年のあゆみ」が発刊されましたが、その一頁一頁に30年の歴史の重みを感じています。とくに、「創立30周年に寄せて」に御執筆いただいた歴代学長先生、後援会初代会長、鵬友会会長、鵬友会関東支部役員「あしおと」の中に30年の歴史の「あしおと」をひしひしと感じました。

国際経済大学設立期の時代、全国大学の「狂瀾怒涛」の時代、大学名改称の時代、大学院設置の時代、これらの歴史の「あしおと」が、これからの大学の豊かなくにちがいにあります。そして、「栄養素」、「土台」になってゆく同窓生の皆さんこそは、これらの歴史の「生きた」栄養素であり、土台そのものに他ならないと思います。是非、皆さん方の豊かで暖かい「栄養素」によって、皆さんの「母校 (alumnater) = fostering mother)」長崎県立大学の、今度は、皆さん方が「育てる (foster)」母や姉や父や兄になつていただきたいと思います。

これからの日本の大学には、さまざまな期待が社会から寄せられています。特に、最近大学審議会では、今後の高等教育の整備の方針として、「世界的水準の教育研究の推進」ということを真剣に言っています。(「平成5年以降の高等教育の計画的整備について」平成3年5月17日)。現在、本学では、「将来構想委員会」と「教授会」において新しい学部学科(「法情報学部。法行政学科。国際コミュニケーション学科」)「いずれも仮称」の設置を具体的に検討しています。また、中華人民共和国華僑大学との友好交流協定をさらに延長し、ますます交流を深めてまいりたいと思っております。

中国だけでなく、その他のアジア諸国との研究教育交流、さらには世界に開かれた大学を目ざしております。21世紀に向けて、長崎県立大学全体、「世界的水準の教育研究」を担う大学に飛躍したいと念願しています。あたかも、長崎県立大学の学章「鵬」のごとくに

日本の内と外で活躍されている6千有余の「鵬友会」の皆さんの御支援を心からお願ひ申し上げます。

全国各地でおとしり達が翔いています。〔各支部活動状況〕

関東支部

●支部長 小室 宏 (52年度卒)
〒04291727631
（自宅）
飯沼町美杉台1-20の15

関東支部活動報告

関東支部の昨年から一年間の活動の主なものを紹介いたします。

●支部総会

人集めに一番悩んでいるものです。新一年生の入学時に頂いている終身同窓会費が活動費の原資ですから、心して同窓会の目的をまっとうする活動を行い、その評価を会員の皆様にお願ひしようと支部総会を定期的に開くのですが、名前の堅さからかどうも敬遠されているようです。

そこで8年度は12月に入ってから忘年会つぼく、9年度は8月のOBセミナーの中に組み入れて行いましたが、出席は19名と17名で、さらなる一考が必要と思っております。

●レクリエーション活動

実行委員の中島久善さん(77年度入学)、小野志郎さん(80年度入学)、田中睦さん(82年度入学)、本永修さん(86年度入学)、松木伸之さん(88年度入学)、本永良子さん(89年度入学)、井原晋さん(90年度入学)ご苦労さまでした。家族揃っての参加という行事は毎年好評で、9年度も5月末にパーベキュー大会を東京江東区若洲の海浜公園で行い、家族を含めて41名の参加をいただきました。

腹に、トライヤール(支部活動に初めて参加した人をこう役員の間では呼んでいます)の方や家族の多くが「お客様」化して、皆でつくるパーベキュー大会に必ずしもなっていないという実感があります。

●OBセミナー

実行委員の海老原敬史さん(73年度入学)、平野幸子さん(75年度入学)、岩田正彦さん(76年度入学)、小野志郎さん(80年度入学)、糸島孝俊さん(85年度入学)ご苦労さまでした。

同窓会員の親睦のための活動以外に、大学や在校生のために何かできないのかという考えで始めた就職活動に関するセミナーの開催も、今年3年目になりました。

大学学生課主催、関東支部協力という形で8月下旬に昨年同様より1日長く、3泊4日の日程で、就職活動に造詣の深いOB他とのセミナー6講座、4社への企業訪問、模擬面接そして19名の参加を得たOBとの懇談会を行いました。

「とてもいいセミナーだったと思う。皆に受けてもらいたいと思う。」「佐世保にいて、関東・中部で就職する厳しさを感じる事ができ、それだけでも参加した意義がございました。」とにかく初めのことがばかりで失敗や驚きの連続でハードなスケジュールでしたが、終ってしまおうと気持ちの良いものです。「本場に参考になった。これからいろいろなことを考えていく上で役にたつた。」「最初は不安があったけれど、東京に出てきて大変勉強になりました。」

た。とても充実した日々をすごせました。「セミナーに参加してない人と比べると、就職についての思い入れが違ってくるように思う。」「就職の厳しさを強く実感した」と同時に地方特に佐世保ののんびりさがよくわかりました。「などの事後アンケートにみられるように、就職活動の啓発につながったと自負しています。

またこのOBセミナーをきっかけとして、大学が毎年秋から冬にかけて行っている3年次生を対象とした就職ガイダンスに、講師の派遣を前田会長を通じて要請され、昨年度2名、今年度4名の関東のOBが大勢の前で話されることは大変光栄に思っています。

しかしながら関東のOBだけが就職活動にうんちくを持っているわけではなく、またOBセミナーの参加者が昨年度16名今年度15名というのは往復6万円の旅費の自己負担が想像にたくらみありません。

そこで学生の方のために費用をおさえた効率のよい方法を本部・各支部が考え実行しようではありませんか。

初めの一歩に躊躇している方がおられましたら、関東支部は3年のノウハウを惜しみなく人材も含めてご提供させていただきます。

●大学創立30周年協賛行事

実行委員の松田邦郎さん(67年度入学)、徳丸正雄さん(69年度入学)、乾正明さん(69年度入学)、橋原博さん(69年度入学)、山下末裕さん(72年度入学)、中内勝也さん(78年度入学)ご苦労さまでした。

一人の会員を連れて参加する運動)懇談会では来賓の藤本副会長による乾杯ののち、参加者全員による自己紹介や近況報告など、なごやかなうちに閉会。

しかし会総会に止まらず、市内のチャンコ料理店豊園に席を移して二次会に入。二次会から参加の会員も合わせた20余名は大いに盛り上がり、全員が今後の活動に協力する約して散会。

一連の活動を通じ、副支部長の瓜生田憲治氏(47年度卒)、安部賢一氏(48年度卒)はもちろん、事務局長の青野浩志君(53年度卒)、役員の河野昭治君(48年度卒)、油布修一君(51年度卒)、大戸桂治君(53年度卒)といった人達の頑張りには本当に頭の下がる思いです。又、転勤中の東京からかけつけてくれた、田辺誓司君(49年度卒)にも感謝、感謝。

一般に「組織を作るのはやさしいが続けるのはむづかしい。」「発展させるのはなおむづかしい。」「と言われます。

発足して間もない当支部ですが、多くの会員の協力を得て、「あせらず、先づは足元をしっかりと固め、出来ることから着実に活動していこう」と考えています。先輩支部の皆さん、どうぞご支援下さい。

最後になりましたが、本年は母校開学30周年の記念すべき年。母校の益々の発展を祈りつつ、皆さんと共に喜び合いたいと思っております。



長崎県立大学同窓会(鵬友会) 大分支部総会

会報「おとしり」には初登場の大分支部です。昨年の4月に鵬友会の第8番目の支部として発足。(設立総会の模様は地元新聞にも大きく写真入りで紹介されました。)発足間もないこともあり、先ずは県内の同窓生に支部活動を知ってもらおうと、各企業毎、各地域毎に地道な活動を展開。さる7月13日には、平成9年度の支部総会を大分市内の「割烹さとう」にて開催、県下各地から多くの同窓生が参加。事前準備として、住所の判明している県内の同窓生150名に案内状を出

今後の発展を誓う

今後の中国地区在住の同窓生の皆様方よりの連絡を密にし、支部活動の向上をしたいと思っておりますので、各仲間の協力をお願いいたします。

昭和46年3月の第一回卒業生を送り出した後、約26年経過し現在中国地区在住の同窓生は約270名内外となっております。

現状と今後の課題
本学の三十周年と、全国各地の鵬友会の皆さんの活躍を心からお祝い申し上げます。

佐賀支部活動報告
鵬友会の総会が二年に一度開催されておりますが、佐賀支部総会もその位のペースで開かれているのでは、と思っております。

中国支部活動報告
平成3年11月に広島県福山市で設立。総会開催後今年で6年目を迎えています。その間広島市で平成6年11月に2回目の総会を開催し、平成9年度冬に3回目を予定しています。